

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：32627

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00082

研究課題名(和文)近代アジアと日本の女性の社会観の形成における国際教育修道会の影響に関する比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study of the Influence of the International Congregation for Education on the Formation of Women's Views of Society in Modern Asia and Japan

研究代表者

佐々木 裕子 (SASAKI, Hiroko)

白百合女子大学・基礎教育センター・教授

研究者番号：60286888

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では近代アジアにおいてフランス系国際教育修道会がそれぞれの地の女性観の形成にもたらした影響を、現在散逸しつつある資料を収集し整理、またインタビューを通じて明らかにしようとするものであった。突然のコロナ禍により海外調査及び資料収集は断念せざるを得なかったが、従来一枚岩として考えられていたカトリシズムの女子教育事業は各々の修道会の背景にある国や文化によって実は多様であり、派遣先の女性観に大きな影響を与えた。さらにはその背景にいた一般女性支援者たちの存在を含め、これらの会員たちの働きを「ソーシャル・キャピタル」としてとらえることによって、従来のキリスト教教育史に別の視点の提供を可能とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、ともすれば一元化してとらえられがちであったカトリシズムの国際教育修道会をその文化的社会的背景により比較すること、そしてそれらを個別の修道会だけではなく体系・横断的にとらえる視野を提供した点が、今後の日本に及びアジアにおけるキリスト教教育史において意義があるといえる。特に日本における明治期以降の教育史において、また、キリスト教教育史の分野においてはプロテスタント系の学校以外の学校教育史研究はほとんど見られないことから、アジアからの視点での日本のカトリシズムの教育事業に関する研究を補完する上で意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study was an attempt to clarify the influence of the French International Congregation for the Education of Women in modern Asia on the formation of local views of women through interviews and the collection and organization of materials that are now being scattered. Although we had to abandon our overseas research and collection of materials due to the sudden Corona disaster, the women's education projects of Catholicism, which had been considered monolithic, were in fact diverse, depending on the country and culture behind each congregation, and had a great impact on the view of women in the destination countries. Furthermore, by considering the work of these members as "social capital," including the presence of lay women supporters in the background, it is possible to offer a different perspective on the conventional history of Christian education.

研究分野：宗教学

キーワード：教育 国際教育修道会 女性観

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

- (1) 日本のキリスト教系教育事業に関する研究は設立100周年などを契機に多くのプロテスタント系学校を中心に行われてきたが、カトリック系学校の教育及びその背景に関しては、長い間ほぼ手がつけられてこなかった。とりわけ女子修道会が担ってきた教育事業に関しては、各学校における「学校史」的なものは存在してきたが、資料的に掘り下げた研究、特に修道会や国をまたいだ横断的研究はなされてこなかった。
- (2) 本研究では、それまでの予備的調査研究により、アジアのいくつかの国にまたがって教育事業を展開している女子修道会を取り上げ、それぞれの修道会の設立の背景にある国や文化が、他の国における教育、とりわけ女子教育にどのように吸収され、あるいは変容していくのかについての研究が必要であることを認識するに至った。とりわけアジアにおける女子教育のインターフェース、特に先駆けとなったヨーロッパ系女子修道会の教育事業がアジアに受容されていくにあたり、それぞれの修道会がもつ女性観 社会における女性の位置づけなどが、教育事業、あるいは時には福祉事業を通してどのようにアジア各国で受け入れられ、どのような違いを生んでいるのかについての調査研究を進めることにより、それぞれの特徴、および文化的変容について明らかになると考えた。
- (3) 多くの教育修道会・宣教会における会員の減少、及び、一般に、もともと目の前の教育、福祉実践に傾注し、自らの資料保持や収集にさほど興味を持たない女子修道会においては、自らの会にかかわる資料を保持していない国もあることから、まずは比較のための資料を収集し、整理することも目的の一つとされた。とりわけ、学校事業体の創立当時、海外からの会員たちを日本や諸外国が受け入れた頃の資料がアジアになく、ヨーロッパの各支部にあることなどから、海外の研究協力者たちの協力により、その時期の資料収集及び整理が今後の研究のための基礎資料として重要であることが認識され、本研究が開始された。

2. 研究の目的

- (1) この研究の目的は、近代アジアと日本の女子教育やその理念、とりわけ女性の社会観 女性は社会に対してどうかかわっていくか の形成に国際教育修道会の教育が与えてきた影響を明らかにしようとするものであった。一般にアジアの女子教育における教育修道会の影響は知られているが、実は地域や修道会によって女子教育の在り方や理念、社会観はかなり異なっている。
- (2) この研究では、従来、ともすれば列強諸国の植民地政策の一端としてのみとらえられがちであった修道女たちを「ソーシャル・キャピタル」という視点からとらえなおし、現在散逸しつつあるアジア宣教の拠点(ハブ)となった香港及びマニラにおける国際教育修道会の女子教育事業に関する散佚緊急性の高い文献・資料の収集・整理、デジタル化を行うと共に、ヨーロッパにある各修道会本部の資料を収集・整理、そして比較することにより、これら地域に点在する同一の国際教育修道会(主にシャルトル聖パウロ修道女会、聖ドミニコ宣教修道女会)の教育事業のアジアと日本での比較を行い、アジアおよび日本において国際教育修道会による女子教育事業が女性の社会観の形成において果たした役割と影響を明らかにすることにより、日本におけるカトリシズムの教育の研究上の空白を埋めることに資することが目的とされた。

3. 研究の方法

- (1) 国際教育修道会に関して、横断的・俯瞰的研究を実施するために、まずは、修道院の閉鎖などによって散逸しつつある一次資料及び修道会に関する各種資料・記録を収集、デジタル化し、整理を実施した。
- (2) 特にその比較のための基盤として、各修道会のヨーロッパにおける古文書館に埋もれている資料の掘り起こし、デジタル化、整理作業の実施計画を立てた。特に従来の研究ではこの部分が抜け落ちていたところがあったため、一次資料の収集を本研究の基盤として据えることとなった。(しかしながら新型コロナウイルスの流行に伴い、海外調査が実施できなくなったこと、また数年にわたる時間の経緯の中で、現地での研究協力者を得られない事情が生じたことから、国内にある資料の整理、インタビュー調査などに方向性を変えざるを得ないこととなった)
- (3) 同一修道会の、フィリピン及び香港の修道会及び学校などの教育事業と協力して、それぞれの国における女性観に共通性や同一の影響があるのか、あるいはもともとの文化的背景の影響が強いと考えられるか、またその社会的要因について比較を試みた。(こちらについても当該国の政治的状況の急変により、現地の研究協力者とのコンタクトが困難となったため、フィリピンに特化しての限定的な調査にとどまらざるを得ない状況となった)

4. 研究成果

(1) アジアにおけるカトリック学校の生徒や卒業生など女性の社会的活動はフランス系国際教育修道会によって支えられていたこと、とりわけ修道会会員のみならず、フランスにおける女性篤志家といわれる一般の女性信徒たちの活動が修道会の教育活動や福祉活動を支えていたことがわかった。修道会会員による活動だけではなく、それらを可能としていた背景にある一般の組織（教育や福祉事業においては特に女性たちによる組織）の存在の重要性が明確となった。

(2) 教育事業と社会福祉事業の関係についても、フランスにおける女性に対する在り方が国際修道会を通じてアジアや日本の女性の社会観に影響を与えたことが明らかとなった。フランスではライシテの影響で国内ではほとんど公教育事業に修道会としてかかわることはなくなっているが、学校教育以外における教育の考え方に関しては、インフォーマル教育や福祉事業の中での修道会の考え方が、海外において影響を与えたことがわかった。特に、その内容としては、単なる「基礎的学習の普及の貢献」ではなく、そこで「理想とされた女性像主に創立者などや社会に対する考え方」が、修道会会員を通して、女性の社会観の形成に「影響を与えたことが明らかとなった。その意味で、従来の植民地政策の先達としてのみとらえられがちであった修道者を、否定的な側面も内包した「ソーシャル・キャピタル」としてとらえることが適切であるということが理解された。

(3) 日本のカトリシズムの教育をアジアの視点から多角的に検討することにより、従来一枚岩として考えられがちであった日本のカトリシズムの教育背景となる宗教文化的な多様性を確認するとともに、日本におけるキリスト教教育史の一部を補完できるものを示すための基盤ができたと考える。

(4) 国際教育修道会における教育事業においては、背景となる母国の文化的・歴史的背景もあり、教育が必ずしも「基礎学力をつけることだけ」を目的としたものではなく、現在の言葉でいうところのSDGsに代表される社会課題の解決策の一つとしての「プロジェクト」として考えられてきたことが明らかとなった。特に教育修道会が成立していく過程において、教育修道会として知られるところであったとしても、同時に福祉的な視点と実践を内包し、これは日本の教育においても、当然、教育という営為を考えれば同じような流れがあるのであるが、それが表出する度合いがこれらの教育実践においては大きくなっている。それはキリスト教に限らず、仏教などの宗教系学校においても「奉仕」などのかたちで実施がなされていたが、特にカトリックにおいては、教育修道会の創立時の背景や経緯により、より濃厚に示されることになったといえよう。キリスト教、特にカトリシズムにおいては、教育と福祉とは共存し、特に違和感がないものと考えられていたが、実はそのルーツにおいて「福祉プロジェクトとしての教育」という側面が強いことが、少なくともアジアにおけるフランス系教育修道会においては、明らかになった。

(5) 今回、残念ながら突然のコロナ禍により、渡航がかなわなくなり、また、その後、現地のスペイン人研究協力者らの協力を得られない状況となったため、フィリピンに入った当時の教育事業や福祉事業などについての資料収集調査に関してはあきらめざるを得なかった。それにより、同じ国に入った、母体となった国が異なる修道会の教育活動へのかかわりについての歴史的検証及び比較がかなわなくなったことは心残りであるが、フランス系修道会による教育事業に関して背景となった本国における一般信徒組織とその運動の影響が確認できた。

一方、香港への事前調査の際に香港のカトリック教会自体も香港の歴史におけるカトリック女子修道会の教育事業、福祉事業にかかわる研究と総括を大きなプロジェクトとして行っていた時期であった。事前のパイロット調査によって、日本から移り住んだと思われる日本人修道者たちの記録を発見したこともあったため、相互交流についても含めた第二次調査を計画していた矢先に、香港への渡航や調査研究がかなわぬ状態となった。こちらに関しては文献資料での研究にとどまらざるを得なかったが、同じ理念をもつ教育修道会における教育が国によって文化的にも変容していく過程を確認することができると同時に、国際教育修道会であったとしても生まれた国が異なる会による現地での教育事業には女性と社会に関する理解、すなわち女性観が異なっていくことが確認できたので、次の研究への基盤整備ができたと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大迫章史	4. 巻 190
2. 論文標題 広島県における教育研究所の設立と展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東北学院大学教養学部論集	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木裕子	4. 巻 45
2. 論文標題 マリ・アンヌ・ドゥ・ティイの遺言書の文言をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 クロニカ	6. 最初と最後の頁 6-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木裕子	4. 巻 46
2. 論文標題 姉妹大学とのつながりから考える社会課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 クロニカ	6. 最初と最後の頁 2 - 5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大迫章史	4. 巻 37
2. 論文標題 総力戦体制下におけるカトリック高等女学校のキリスト教教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 カトリック教育研究	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大迫章史	4. 巻 26
2. 論文標題 明治期の女子教育と私立女子自助館 - 『忘れられたミッション・スクール』 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間情報学研究	6. 最初と最後の頁 19-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto ICHIKAWA	4. 巻 64
2. 論文標題 The Philippines as a Center for Clerical Formation in Asia 2: A Case Study of Philippine Theological Institutes and the Mobilities of Clerical Probationers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立教大学教育学科研究年報	6. 最初と最後の頁 183-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木裕子	4. 巻 42
2. 論文標題 現代においてショーヴェ師の教育を考えるとということ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 クロニカ	6. 最初と最後の頁 3-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂野正則	4. 巻 72
2. 論文標題 報告 フランス初期宗教改革再考 改革・教会・信仰	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 キリスト教史学	6. 最初と最後の頁 44 - 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂野正則	4. 巻 63
2. 論文標題 「ルイ14世の死」再考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 上智史学	6. 最初と最後の頁 123 - 139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂野正則	4. 巻 5
2. 論文標題 近世フランスの植民地とカリブ海域 アンティル諸島とミシSSIPPI・デルタをつなぐ「都市と領域」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 都市史研究	6. 最初と最後の頁 76 - 84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大迫章史	4. 巻 35
2. 論文標題 戦時下におけるカトリック学校の動向に関する研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 カトリック教育研究	6. 最初と最後の頁 1 - 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 市川誠	4. 巻 62
2. 論文標題 The Philippines as a Center for Clerical Formation in Asia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立教大学教育学科研究年報	6. 最初と最後の頁 57 - 67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14992/00017613	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木裕子	4. 巻 39
2. 論文標題 教育修道会における養成プログラム改革プロジェクト	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 クロニカ	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Ichikawa, Makoto
2. 発表標題 The Philippines; Martyr Moms in the Exemplary Country On Gender Equality
3. 学会等名 5th World Council of Comparative Education Societies Symposium
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 市川誠
2. 発表標題 フィリピンのリバース・ジェンダー・ギャップ (PGG)の一考察 ジェンダー・ギャップ・インデックス (GGI)優等国の「受難の母」)
3. 学会等名 日本比較教育学会第29大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ○市川誠、佐々木裕子、坂野正則、大迫章史
2. 発表標題 アジアのカトリック教会 - フィリピンの神学院の実証的研究 -
3. 学会等名 カトリック教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大迫章史
2. 発表標題 総力戦体制下におけるカトリック学校の教育課程
3. 学会等名 日本カトリック教育学会 第42回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大迫章史
2. 発表標題 戦前におけるカトリック学校の法人化の特徴について
3. 学会等名 日本カトリック教育学会第42回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroko SASAKI, Makoto ICHIKAWA
2. 発表標題 Case Study of a language School for Prospective Religious Its Implication to Interculturality in Paulinian Education History
3. 学会等名 29th SPC Educators' Congress & 14th International SPC Educators' Congress (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 大迫章史	4. 発行年 2022年
2. 出版社 同志社大学同志社社史資料センター編集	5. 総ページ数 94
3. 書名 「新制大学とカトリック大学」『ハリス理化学館同志社ギャラリー第24回企画展目録』	

1. 著者名 大迫章史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 科研研究成果報告書	5. 総ページ数 135
3. 書名 宮城県のミッション・スクールとキリスト教教育 - 尚絅女学校を事例に -	

1. 著者名 市川誠 (分担執筆)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 一藝社	5. 総ページ数 160
3. 書名 アジア教育情報シリーズ 4. 第2巻 東南アジア編』	

1. 著者名 坂野正則	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 388
3. 書名 「近世フランスのキリスト教」中野隆生、加藤玄『フランスの歴史を知るための50章』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	市川 誠 (ICHIKAWA Makoto) (60308088)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	大迫 章史 (OOSAKO Akifumi) (60382686)	東北学院大学・教養学部・教授 (31302)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	坂野 正則 (SAKANO Masanori) (90613406)	上智大学・文学部・教授 (32621)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
フィリピン	Saint Paul University, Dumaguete	Saint Paul University, Quezon City	Saint Paul University, Manila